

みんなで育てる九重っこ

令和7年度このえ学園基本計画を学校で推進するために



九重町教育委員会

令和7（2025）年 4月

目 次

I	はじめに	1
II	ここのえ学園基本計画の概要	2
III	各取組について	
1	5・6年生集合学習	3
2	集合学習につなげるための九重町の共通指導（学習面・生活面）について	4
2	つながり学習について	7
3	体力向上について	8
4	食育・保健指導について	9
5	人権教育について	10
7	ここのえ学について	11
IV	その他	
1	ここのえ学園会議担当と具体的な役割について	13
2	令和7年度行事等日程表について	15

I はじめに

九重町教育委員会は、平成27年5月に「ここのえ学園基本計画」を策定しました。その後、本計画に則り、平成28年より小学校5・6年生の集合学習、小学校と就学予定の園児との交流（つながり学習）、ふるさと九重について学ぶ「ここのえ学」、中学校体験入学やスポーツ鬼ごっこを通じた交流活動など様々な取組を行ってきました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、集合学習やつながり学習など、様々な活動の中止等を余儀なくされてきましたが、令和5年度からは新型コロナウイルス感染症が5類へと移行されたことに伴い、全ての活動を計画通り開催することができました。令和7年度も、児童生徒の健康状態等に留意しながら、各取組の有効かつ確実な実施をめざします。また、令和4年度に「九重町第5次総合計画」が策定されたことに加え、同じく令和4年度に実施した「ここのえ学園基本計画に係る教職員等意識調査」の分析結果に鑑み、現計画については引き続き発展的な見直しを進めてまいります。

さて、これまで九重町は「定住1万人」を目指して取り組んできましたが、令和7年3月31日現在の人口は8,192人となりました。人口減少、少子高齢化が進む今、九重町の教育を充実させることに加え、学校が地域の文化の中心として公民館と連携し様々な取組を行うことが、「教育・文化における地域創生」を実現することになります。これからの九重町を担う子どもを育てることは、町にとって欠かせない重要なことです。「ここのえ学園」の取組はその第一歩です。子どもから高齢者まで安心して住める町づくりに貢献していただいている教職員の皆さまに深く感謝すると同時に、今後も学校現場での活躍に期待しています。

Ⅱ このえ学園基本計画の概要

このえ学園基本計画の概要は次のとおりです。

九重町第5次総合計画

- ☆「未来へつなごう！豊かなところと癒しの自然」
- ☆「地域に学び、人を育て、未来が輝くまちづくり」

九重町教育大綱

- ☆「豊かな人間性を育むまちづくり」
- ☆「教育分野の課題解決と教育内容の充実をめざす」

教育行政基本方針

- ☆「ふるさとに学び 夢や志を抱き、ふるさと九重を大切にす りとづくり」

「このえ学園」のスローガン

「子どもたちの「15の春」のあるべき姿をめざして教育改革に取り組む」

「このえ学園」のめざす「15の春」の姿

- ☆ 将来の夢を持って、自己実現に向かう力を育てること
 - ・基礎・基本の学力の育成
 - ・自己実現できる気力・体力の育成
 - ・自己決定力の育成
- ☆ 「ふるさと」九重町を大切にす りる心 を育む
 - ・多様な観点から自分と郷土（九重町）を見ることができ りる力の育成

九重町の教育の8課題

① 予想を上回る急激な少子化による小規模校・極小規模校化

② 地域との連携の不十分さ

③ 個人や学年による学力の差

④ 自己肯定感・自尊感情の低さ

⑤ いじめ・不登校への対応

⑥ 幼・小・中における系統的な人権教育と特別支援教育

⑦ 保・幼・小の連携、小・中の接続及び就学前教育の充実

⑧ 地域人材の活用が不十分



改善に向けた具体的な取組

① 小学校の同一学年が中学校に集まり行う「集合学習」
 ■ 体育・外国語などでクラスを再編成し（6小学校児童混成）学習効果をめざした授業の実施

② 教育課程の見直し（カリキュラムマネジメント）
 ■ ふるさと九重を学ぶ「ふるさと学」の導入
 ■ 地域住民との協働による体験学習の充実

③ こども園と小学校の連携（カリキュラムの見直し）
 ■ 計画的な交流活動「つながり学習」を実施し、小学校との接続をスムーズにする

④ 地域との連携（公民館を中心とした交流の促進）
 ■ 学校支援地域本部の活用と人材バンクの充実
 ■ 公民館・各種団体・こども園・学校の地区を越えた交流

⑤ 小・中間の教員の乗り入れ指導
 ■ 児童生徒理解と専門教科指導の充実

⑥ 人権教育・部落差別解消推進教育指導計画の見直し
 ■ こども園、小1～中3 迄の系統的な指導

⑦ 教科指導力の向上
 ■ 小・小間、小・中間教員による指導方法の相互交流

⑧ 生徒指導の共有（いじめ・不登校問題など）
 ■ 生徒指導上の諸問題の共有と統一した指導と連携

⑨ こども園の子育て支援の機能の充実
 ■ 幼保一体型総合こども園で充実した保育・教育の提供
 ■ 子育て支援拠点事業における相談活動の充実

期待される効果

【子ども・保護者にとっては】

- ☆ 適正規模人数での授業
- ☆ 小1プロブレムの緩和
- ☆ 中1ギャップの緩和
- ☆ 協調性や社会性の育成
- ☆ 多様な価値観に触れる機会の増加
- ☆ 競争意識の育成
- ☆ 心豊かな子どもの育成
- ☆ ふるさと九重についての愛郷心の育成
- ☆ 安心して子育てができる環境の提供



【学校・教職員にとっては】

- ★ 指導方法の共有
- ★ 教員の指導力向上
- ★ 幼・小・中教諭の連携
- ★ 9年間、15年間の切れ目のない指導
- ★ 地域との連携による信頼関係と学校教育への好影響

【地域にとっては】

- ※ 地域と学校の良好な関係の構築
- ※ 地域活動への子どもたちの参画と積極的な参加
- ※ 地域の担い手育成をめざした学校教育へ参加



Ⅲ 各取組について

1 5・6年生集合学習

(1) ねらい

急激な少子化が進むことで、子どもたちの人間関係が固定化することや切磋琢磨する機会が少ないこと、多用な価値観に触れる機会が少ないことについて危惧されています。また、中学校進学時の中1ギャップを解決する手段の1つとして集合学習に取り組んできました。

(2) 6年生集合学習

○実施時期と回数

- ・ 6月に佐賀県「吉野ヶ里遺跡」へ社会見学を実施する。
- ・ 集合学習を6月に4回実施する。場所はここのえ緑陽中学校とする。
- ・ 修学旅行を6校合同で実施する。また、修学旅行の前に集合学習を1回実施する。
- ・ 中学校体験入学を2月に実施する。

○教科と内容

- ・ 指導形態（教科学習）
 - * 体育は体育専科教員、外国語は小学校英語専科教員が中心となって授業を行う。
 - * 6年担任は、6年生授業のTT、または中学校の授業を参観する。
- ・ クラス分け
 - * 各学校6年生をA、Bの2クラスに分ける。（令和7年度児童数61名）

(3) 5年生集合学習

○実施時期と回数

- ・ 10月の社会見学前後に集合学習（社会）を2回実施する。場所はここのえ緑陽中学校とする。
- ・ 9月に交流の目的で集合学習（「スポーツ鬼ごっこ」¹⁾）を実施する。

○教科と内容

社会 工業生産と私たちの暮らし・情報社会に生きるわたしたち

- ・ 指導形態（教科学習）
 - * 5年担任6名（学級担任2名、副担任4名）（社会科T1…2名、T2…4名）
- ・ クラス分け
 - 学校単位で2クラスに分ける。

¹⁾「スポーツ鬼ごっこ」とは（朝日新聞掲載「キーワード」解説）

スポーツ鬼ごっこは、20年ほど前に城西国際大の羽崎泰男教授が考案したニュースポーツ。遊びの王様「鬼ごっこ」を、時代に合わせて、新しく開発をした鬼ごっこです。スポーツでありながらも、遊びやゲームの要素を共存させた鬼ごっこであることがコンセプトです。2チームに分かれ、相手のタッチを避けながら敵陣にある「宝」を奪った回数を競う。原則1チーム7人で、試合時間は5分×2回。

2 集合学習につなげるための九重町の共通指導（学習面・生活面）について

集合学習の実施や中学校入学に備え、九重町では最小限のきまりづくりを行なっています。学習と生活のきまりについて各学校で統一した指導を行なってください。

<1>学習の決まり

(ア) 授業中に机上に準備する用具について

○必要最小限の用具を筆箱に入れ、机上に準備する。

＊集合学習を行う高学年に焦点を置いて考える。

＊必要最小限（例）鉛筆（3～4本）・消しゴム・定規・赤青鉛筆・下敷き

(イ) 始めと終わりのあいさつについて

○座ったまま挨拶をする。

「姿勢」

「始めます」・「終わります」

『はじめます』・『終わります』

(ウ) 発表の仕方・ルールについて

○「はい」と言って挙手をする。

○指名後「はい」と言って起立後、発表する。

○発表の内容により、「付け加えます」「ほかにあります」「違う意見があります」

「賛成です」「～だからです」「～です・ます」等丁寧な表現で発表する。

○発表するときや聞くときの姿勢、私語をしない等を定着。

<生活のきまり>



(1) 学習

- 時間・チャイムの合図を守りましょう。
- 休み時間のうちに次の学習への準備をしましょう。
- 体育館や特別教室へ移動するときは静かに整列して移動しましょう。

(2) 休み時間

- トイレ・水飲みをすませましょう。
- ろうかや階段は右側を静かに歩きましょう。

(3) 入退室

- 職員室や他の教室に入るときは、各学校の入退室のルールを守って入りましょう。

(4) 言葉づかい

- 気持ちのよいあいさつをしましょう。
※あいさつ ATM を心がけましょう。
A…明るく T…立ち止まって M…前を向いて
- 先生や目上の人にはていねいな言葉づかいをしましょう。
- 友だちがいやがる言葉を言いません。

(5) その他

- 学校の物は大切に使い、使い終わったら元の場所に返しましょう。
- 学校の物を壊したりなくしたりしたときは、先生に言いましょう。
- 自分の持ち物に名前を書きましょう。
- 筆箱の中身は、学校で決められた物だけを入れましょう。
- 学校で使わないものや必要のないものは持ってこないようにしましょう。
- 特別教室には勝手に入らないようにしましょう。
- ベランダには必要なとき以外は出ません。

(1) ノー・メディア・デー

「ノー・メディア・デー」の取組については、メディア（テレビ・ゲーム・スマホ・PCなど）利用時間が長い家庭生活を見直すために、町全体で取り組むことになりました。各学校によって取組内容や方法が行っていますが、次の2点について統一して取り組んでいます。

①このえ緑陽中学校のテスト期間に合わせて全学校で取り組む。

※このえ緑陽中学校はテスト期間が決定したら各学校へ情報提供する。

②中学校においてはテスト勉強、小学校では「家族と過ごす」「親子読書」など、これまでの取組も踏まえて実施する。

(2) 地域・公民館・ふるさと自然学校との連携

各校において、保護者・公民館主事・地域人材など、地元の関係者・関係団体の協力を得ながら実践を進めてきた経緯を踏まえ、今後、さらなる地域教材の開発や連携を進めていきます。その結果をまとめデータベース化することで、九重町に赴任してきた教職員がより活用しやすいようにしていきます。そのために次のことについて取り組みます。

①地域教材の開発

○各学年の教科・単元の中から地域教材による学習が可能と思われる内容を選定。

○具体的な実践については、指導案や資料を共有フォルダに保存し、すべての学校で活用できるようにする。

○全町でふるさと自然学校やビジターセンターなどの活用に取り組む。

○人材バンクの再構築を行い、4地区にこだわらず町全体で活用できるようにする。

(3) 生徒指導

子どもたちが6小学校から進学してくるこのえ緑陽中学校では、新1年生のクラス分けを行うことが難しい状況です。また、子どもの様子について小学校から引き継ぐことも計画的に行う必要があります。小中連携については、以下のような方法で行いません。また、中学校の教員は、6年生集合学習時に積極的に授業を参観し、次年度入学予定の児童の様子を把握するように努めます。

①このえ学園生徒指導研修会（中⇒小）

・日 時 2月頃に設定

・内 容 中学校の教職員が午後に小学校6校に分かれて授業参観や協議を行う。

協議は、授業参観の様子での意見交換・学校生活の様子・支援が必要な児童についてなどを行う。

②新入生情報交換会（3月）

○中学校の担当者が日程等を計画し各小学校へ連絡。（修了式前後）

○小6の担任が中学校へ出向き、情報交換・申し送りを行う。

※必要に応じて管理職や養護教諭も参加する

3 つながり学習について

九重町では、幼保連携型認定こども園として「ここのえみつばこども園」「ここのえ飯田こども園」の2園が設置されています。全国的に小1プロブレムへの対応を求められる中、九重町では年4回、こども園と小学校の交流「つながり学習」を町として組織的行なっています。

- ①小学校で行う交流については、町外施設に通園している幼児にも教育委員会が案内を行う。
- ②小学校運動会への園児の参加について、すべての学校で工夫しながら実施する。
- ③教育課程上の位置づけについて各学校で検討する。
- ④1年生との交流については、こども園の園児が入学した姿をイメージできることと、1年生が次年度に上級生となることを自覚できるようにするために必ず実施する。
- ⑤1年生以外との交流は5年生を基本とするが、学校事情等に応じて3～5年生の中から交流学年を決定する。
- ⑥交流計画は次の表を参考に決定する。

○年間スケジュール

月	行 事 内 容
5	・つながり学習担当者会①（15日） ・小学校参観（こども園職員が小学校へ行く）5月26日～5月30日
6	・交流①「3～5年生がこども園に活動に行く」（17日）
8	・つながり学習担当者会②
9	・交流②「園児が小学校に行き、1年生と交流」（11日）
11	・交流③「園児が小学校へ行き、5年生と交流」（20日）
2	・交流 ④「入学説明会を利用し、小学生と年長児が交流」 （日にちは学校ごとに設定）
3	・園保育参観（小学校職員がこども園へ参観に行く） ・こども園と小学校の引き継ぎ

準備は紹介カードのみとし、交流活動を中心に行う。

*飯田小学校・飯田こども園については、本交流計画を参考に交流活動を行う。

*町外施設に通園している幼児の案内を確実に行う。（教育委員会）

*参加児童と準備物等について、園と小学校で事前に確認を行う。

4 体力向上について

体育専科教員や中学校体育担当者が、体力調査の結果をもとに九重町の児童・生徒の特に低い種目について7校で取り組める内容を検討します。

令和6年度 九重町における児童生徒の体力向上の課題

小学校：長座体前屈・上体起こし

中学校：長座体前屈・立ち幅跳び・ハンドボール投げ

(1) 小学校

- ①休み時間等…児童会専門委員会等と連携しての全校遊びの実施
- ②体育の時間…体育専科教員の指導や支援を得ながら行う。

(2) 中学校

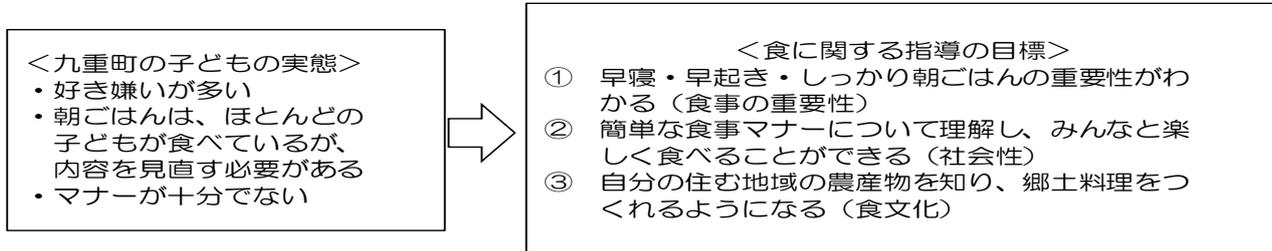
- ①体育の時間や部活動を活用して実施する。

5 食育指導について

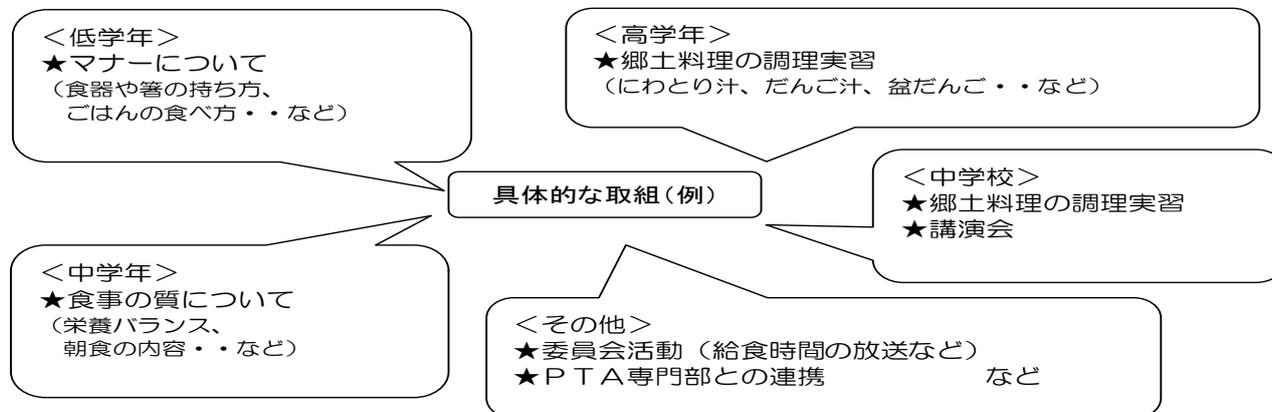
九重町の食育については「ここのえ学園食育全体計画」に沿って各校の食育全体計画を作成しています。また、九重町には栄養教諭が1名配置されています。各学校では、年間2回以上栄養教諭を招聘しての栄養指導を行ないます。（日程については野上小校長と協議します。）

ここのえ学園の食育

<目指す子ども像>
自分で正しい食生活を考えられる子ども
 ~自分で自分の食事を作れる子ども~



食に関する指導でつきたい力（小学校）		
低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・食べものに興味関心を持ち、好き嫌いしないで食べることができる。 ・朝ごはんの大切さがわかる。 ・よくかんで食べることの大切さがわかる。 ・基本的なマナーを守って食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい食事の大切さがわかる。 ・自然の恵みや食事をつくってくれる人々へ感謝することができる。 ・食事のマナーを守って、楽しく食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な調理方法を理解して、料理することができる。 ・食事をとることの大切さを理解し、習慣化することができる。 ・地域で作られる農産物を知り、郷土料理を作ることができる。
食に関する指導でつきたい力（中学校）		
<ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんを食べる意味を理解する ・バランスのとれた食品を選び、適切な食事を自分でも準備できる力を身につける ・望ましい食習慣を身につけ、自分の健康に配慮した食生活ができる 		



6 人権教育・部落差別解消推進教育について

九重町の人権教育・部落差別解消推進教育については、小学校1年生から中学校3年生まで系統性を持ったの指導を行なうため、「九重町人権共通教材」を作成し実践を行なっています。

(1) 人権教育共通教材

<小学校>

学年	部落問題学習に関するもの	障がい者問題に関するもの
1年	○われたかびん (「ぬくもり」福岡市人権教育研究会)	○かお (「なかま」奈良県人権教育研究会)
2年	○ともだちっていいな (大分県人権教育研究協議会)	○なんでわりいんか (「しんけんにじんけん実践編vol.1」 大分県同和教育研究協議会)
3年	○いいまちがただじゃなく (「さけび」宇佐市同研編)	○バリアフリーたんけんたい
4年	○父の仕事 (「人権作文集「ひかり」⑱)	○せきがあいているのに (光文書院)
5年	○おじいさんの太鼓作り (「わたし語らいひびきあい」)	○妹の手紙
6年	○やぶれたたいこ (「なかま」奈良県人権教育研究会)	○いのちの授業

<中学校>

学年	部落問題学習に関するもの	障がい者問題に関するもの
1年	○識字「夕焼けがうつくしい」 (「にんげん」部落解放同盟高地) (絵本:ひらがなにつき) ○教科書無償の闘い (おおいたの部落問題学習)	○私の話を聞いてね (道徳 光村図書)
2年	○ヘイトスピーチ解消法から、ネット上の差別について学ぼう (法務省DVD:外国人と人権～違いを認め共に生きる～) ○奨学金制度について学ぼう	○夢の力 ・深めたいむ (道徳 光村図書)
3年	○結婚差別 ・宿毛結婚差別事件 ・差別落書き「輝けすべての命」 (玖珠郡同教による演劇のビデオ「輝けすべての命」) ○統一応募用紙 (おおいたの部落問題学習)	○命の授業 ○ソーシャル・ビュー ～見えない人と楽しむ 美術鑑賞 (道徳 光村図書)

*学校ごとに教育課程に位置づけ実施するが、定期的に見直しをおこなっていく。

*資料や教材等については、町の共有フォルダを活用し蓄積していく。

*小学校6年生・中学3年生については「いのち(命)の授業」(講師:進 孝美氏に依頼。実施時期等は学校から直接連絡をとり、日程調整の結果を教育振興課に連絡)を実施。

(2) 人権教育研修

①九重町教職員人権教育研修会・公開授業研究会(9月)

共通教材を用いた授業実践交流を通し、指導内容をより充実させることを目的に行なう。担当校は原則すべての学年で共通教材を用いた授業を公開する。また、取り扱う内容については、「部落問題学習に関するもの」と「障がい者差別に関するもの」を隔年で実施する。

②人権部落問題学習研究会(小学校6年生担任)

社会科の歴史の授業において部落問題学習の視点を持ちながら、授業実践をするための授業展開や資料の活用について研修する。

7 ここのえ学について

「ここのえ学」は「九重町について体験、知識、人との関わりを通して九重町共通の系統的な学習を積み、その土台をもとにここのえ緑陽中でさらに発展・深化した地域学習をおこなうこと」を目的とし、共通テーマを設定して学習を行なってきました。

○各職場において、総合的な学習の交流を指導者間で行う。

○学習の場への移動は町バスを利用する。G Tの謝礼や交通費に関しては社会教育課へ相談する。

総合的な学習の時間 共通テーマ・学習内容 実践内容

学年	3年生	4年生	5年生	6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
ここのえ学園に関するテーマ・学習単元例	*身近な地域の特色	*文化・伝統 *いのち	*地域の環境・産業・安全から選択して実施	*将来の夢	*九重町の特色	*歴史 *仕事	*町づくり *進路
	身近な地域のじまんを探して、紹介パンフレットを作ろう。 校区の梨を育てる体験を通して、P Rしよう。 身近な温泉を調べて、多くの人に知らせよう。 地域の生き物について調べ、マップを作ろう。	地域のお祭りを調べて、参加しよう。 麻生観八について調べ、記録を残そう。 地域の太鼓を聞き、自分たちも演奏しよう。 二分の一成人式で自分の成長を振り返ろう。	ブルーベリー生産について調べ、プレゼンしよう。 地域の安全(防災)について調べ、安全マップを作ろう。 地域の観光について調べ、観光プロジェクトを作ろう。 地域に生息するホタルについて調べ、ホタルを増やそう。	地域の人へのインタビューを通して、自分の夢を描こう。 いろいろな職業について調べ、働くことについて考え発表しよう。	九重町の特色(自然・観光・仕事・食文化・祭り・史跡など)についてグループごとに調べ、その良さを発信しよう。 地域見学に行こう。	平和について地域の方から学び、記録に残そう。(修学旅行の広島につなげる) 地域の職業や産業について調べ、地元で働く人たちや高校生(卒業生)と交流しよう。	職場体験学習を通じて、自身の進路について考えよう。 九重町の長所と課題をまとめ、人々が住みたいくなる(来たくなる)九重町にするための町づくりプランを作ろう。
ここのえ学園以外のテーマ・学習単元例	○福祉			○平和 ○福祉	○国際交流	○修学旅行	○平和
	地域の施設の見学をして、ユニバーサルデザインについて調べよう。			平和について学んだことを伝えよう。お年寄りとの交流を通して、ボランティア活動をしよう。	APUの学生との交流を通して、様々な文化を学ぼう。英語で九重町の紹介をしよう。	日本の歴史・文化を実物にふれ、学ぶ。	平和について学んだことを伝えよう。

	3年生	4年生	5年生	6年生
東飯田小	*身近な地域の特色 ○梨を育てる経験を通して、東飯田の梨をPRしよう。	*文化・伝統 ○麻生観八翁の残したものについて調べ、伝えよう。 *いのち ○1/2成人式の取り組みを通して、自分の成長をふり返ろう。	*地域の安全 ○地域の防災について調べ、防災リーフレットを作ろう。	*将来の夢 ○いろいろな職業について調べ、将来の夢を思い描こう。
野上小	*身近な地域の特色 ○野上じまんを探してパンフレットを作ろう。 ○ちびっ子マーケットを開こう。	*いのち ○自分の成長をふり返り、1/2成人式で感謝の気持ちを伝えよう。 ○夢パークを探ろう。	*環境・産業 ○九重とミナマタをつなぐ水(命)の旅 ○米作りについて調べ、米博士になろう。 *地域の安全 ○地域の防災について調べ、防災マップを作ろう。	*将来の夢 ○野上の歴史、人に学び、自己の生き方や考え方を見つめよう。
野矢小	*身近な地域の特色 ○土づくりのひみつを調べよう。 ○野上川の水と生き物について調べよう。 *文化・伝統 ○昔から伝わる食べ物について調べよう。		*環境・産業 ○私たちの作った野菜を発信しよう。 *地域の安全 ○地域の防災について調べ、防災マップを作ろう。	
飯田小	*身近な地域の特色 ○飯田の自慢(タデワラ湿原)について調べ、紹介しよう。	*文化・伝統 ○飯田の歴史を調べよう。 *いのち ○1/2成人式で感謝の気持ちを伝えよう。	*地域の安全 ○防災について調べよう。	*将来の夢 ○飯田の歴史、人に学び、自己の生き方や考え方を見つめよう。
	○タデワラ湿原について調べよう。			
淮園小	*身近な地域の特色 ○淮園の自慢(しいたけ)を調べて、多くの人に知らせよう。	*環境・産業 ○淮園のホテルについて調べホテルを増やそう。 *地域の安全 ○地域の防災について調べ、防災について発信しよう。	*将来の夢 ○地域の人の生き方に学び、自分の生き方を見つめよう。	
	*文化・伝統		○淮園太鼓のすばらしさを知り、自分たちの演奏を聞いてもらおう。	
南山田小	*身近な地域の特色 ○地域の自然を探検しよう。	*いのち ○地域について調べ、自分の成長を振り返り、それをもとに1/2成人式を開こう。	*環境・産業 ○九重のブルーベリーづくりを知ろう、体験しよう。 *地域の安全 ○地域の防災について調べ、防災マップを作ろう。	*将来の夢 ○大人になることや夢を実現することなど、様々な人の生き方を学ぼう。
ここのえ緑陽中	中学1年生		中学2年生	
	*九重町の特徴 ○九重町の特徴(自然・観光・仕事・食文化・祭り)などについてグループごとに調べ、その良さを発信しよう。		*仕事 ○地域で働く人について調べ、職場を体験し、交流しよう。	
		中学3年生		
		*町づくり ○九重町の長所と短所をまとめ、人に優しい九重町にするための町づくりプランを作ろう。		

